

## 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会 質疑一覧(H22.5.13・14)

## 【第4章 大柱3・4】

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
1	資料2-2 P8「大柱3-(2)-①生きる力を伸ばす教育の充実」についての施策のこの事業例にある校庭の芝生化事業は効果として施策のイにあるような子供の体力の向上やスポーツの事が入ってくると思うがいかがか。	校庭の芝生化と体育・健康教育はある意味関連性はあると思う。体育授業のなかでの芝生化は関連性がある。
2	体育、スポーツの関連性があるというなら、施策のイの部分の体力の向上などの部分が係わるはずで、校庭の芝生化を学校の緑化に留めず、そのメリットを施策に反映すれば市民理解を得られるのではないか。	体力の向上や健康の面での効果も含めて、表記について考えたい。
3	難しく考えずに、芝生化の緑化だけでない体力の向上などの効果について明記すれば、より市民に分かりやすくなると思う。	緑化だけではない他の効果があることは理解している。効果の記述について市民に分かりやすい内容を検討したい。
4	より充実したものにしていきたい。	
5	P8「②特色のある教育の推進」のイの国際コミュニケーション能力育成事業について、学校教育の英語だけではなく、米軍文化との関係で英語に興味を持つしくみをつくることはできないか。	大変重要なこと。学校によっては米軍基地内の学校との交流を行っている。9.11テロ以降は基地内に入ることが難しくなっているが、これからも考えていきたい。
6	学校単位ではなく横須賀市として教育委員会が積極的に働きかけて、今までにないような事を行うべき。スポーツを使って基地内との交流を図ることで、スポーツ振興だけでなく英語教育などの二次的な効果が生まれるのではないか。	今回は現在行っている事業を明記したが、今後については何ができるのか事業を考えたい。
7	今後、幅広く検討頂きたい。	
8	P9「②スポーツ活動の振興」について、施策がそれぞれあるが、今後、行政がスポーツに関わることについて、大学の体育学部からスポーツ振興策についてのアドバイスを受けることが必要ではないか。	大学との連携は教育委員会で行っており、学生ボランティアとしてお願いしている。ご指摘の部分を含めて幅広く考えていきたい。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
9	ボランティアだけではなく進めてほしい。大学の研究は進んでいるので、全国の体育学部が行っていることを取り入れるなど、視野を広げてほしい。	現在は神奈川県内だけだが、ご指摘のとおり今後検討していきたい。
10	検討頂いて、より実効性のある活動にしてほしい。	
11	P10「②交流による芸術文化の創造」について、施策のイは芸術劇場のこと、ウは美術館のことのようだが、施策イは美術館にもあてはまるのではないか。	ご指摘のとおりイは芸術劇場、ウは美術館としてのもの施策。音楽芸術と美術に触れるという違った切り口で記述している。
12	興味をそそるものでなければいけないと思う。集客の方策について考えなくてはいけないと思うがいかがか。	重要な視点である。記述方法について今後検討したい。
13	P8「①生きる力を伸ばす教育の充実」の施策エについて、これからの食育の課題は中学校の完全給食だと思うが、今後10年ではどうか。	今後10年間では、施設設備や経費面で難しいと考える。
14	10年後でも難しいのであれば、他の事業も同じことで優先順位が問われるのではないか。	以前よりも中学校の完全給食の要望があるのは承知しているが、現時点での完全実施は難しい。今後も協議していきたい。
15	どんな事業にも困難はつきものであると思う。	
16	P9(3)-①のエについて、内容は良いことで分かるが、文中の「学社連携・融合」は聞きなれない言葉だ。どのようなところから出てきた言葉なのか。	社会教育委員会議の中で使われている言葉。社会教育の分野ではある程度認知された言葉である。
17	前後の文脈から意味は分かるが、基本計画の中で使う場合は市民に分かりやすい表現をするべきではないか。	表現方法は政策推進部で統一を図り調整を行った。分野別計画との整合も行ったが、市民に分かりやすいかは大事なポイント。再度検討したい。
18	P14(4)-②-アだが、市内の医療機関の医師不足について、現時点で考えている対策はあるのか。	医師不足は市内だけでなく、全国的な問題として認識している。しかし、看護師は期待できるが医師は難しい状況。今後、具体的に検討していく。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
19	今後に期待するが、現時点ではどのような検討をしているのか。方向性を知りたい。	横須賀市全体の医師不足をどうするのかは検討していないが、市民病院、うわまち病院については、色々要請を行うなど努力している。
20	現在も大変だが、今後10年間をみても計画のなかで大事な部分であるので一生懸命やってもらいたい。	
21	P7(1)-①-アとイについて、産科医師不足への対応策をどのように考え、施策に反映していくのか。	医師の確保について、こども育成部として具体的な施策はない。現状は、妊婦さんのために相談体制を整えたり、市内の状況把握を行っている。今後、健康福祉部とも連携して早めに対応していきたい。
22	イの施策には今の横須賀市の状況が入っていない。10年の計画であることは理解するが、医師不足に対する事業例がないが。	医師不足については、今後検討していく。
23	P7(1)-②-エの放課後の児童の居場所について、事業がみんなの家、わいわいスクール、学童クラブと3つあるが、10年後も同じ体制で行うものと捉えてよいのか。	現状の取組みを事業例として記載している。今までそれぞれの事業が補う形でやってきたが、これからは総合的にやっていきたい。子ども第一に、働く親のニーズに公平、平等に応えていきたい。
24	10年後の在り方を示す計画であるので、総合的に考える方向性があるのであればそのような文言を施策の中に入れていくべき	あくまでも現在の状況でとらえたものになっている。10年のスパンで考えて、今後のニーズの変化に対応できるように表現を工夫していきたい。
25	放課後児童対策として、横須賀市が他都市と比べて進まないのは学校の余裕教室を使っていないからではないか。	現在の放課後児童に対する3つの対策は目的が違うもの。現在、教育委員会と連携のための話をしている状況であり、新しい方向に向け努力していく。
26		放課後の子供たちの居場所づくりは学校としても課題であると認識している。場所の確保が思うようにいかなかったが、制度を整理して、こども育成部とも協議していく。施策の表現については検討を行う。
27	お互いに連携して迅速に取り組んでもらいたい。	
28	P8(2)-①-エで、学校給食環境の充実とあるが、事業例のほか何かあるか。	主な事業を載せている。施設設備の問題や地産地消について考えていく。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
29	学校給食は成長期のこどもにとり非常に大切なもの。学校給食環境の充実の中に、「体づくりに必要である」というような文言があっても良いと思うが。	学校給食環境となると広範囲になるが、施策のこのこどもの生活習慣の改善の部分にも関係してくる。食育の面も含め表現方法を考える。
30	P9(3)-②-イについて、誰もが気軽に「誰もが」とは、障害者スポーツも含まれると考えてよいか。	ご指摘の通り、障害者も含まれる。
31	この表現も一つの方法だと思う。しかし、障害者スポーツに対する行政の支援が遅れている。その点に関する内容が必要ではないか。	大事な部分であると思う。様々な人々に対する表現を検討したい。
32	事業例に、障害者スポーツに関するものが入っていなかったので質問した。	
33	P12(1)-①-ア、イの、若年層に向けた平和思想の普及は大切。この事について、どのように考えるか。	ご指摘のとおり大切なこと。どの様なことができるか、部内で考えていきたい。
34	P12(1)-②-イの施策の「心のバリアフリー」という表現は、市民が見たときに分かりやすいと思うか。	バリアフリーという言葉はかなり使われ普及している。「心」が付くと少し感じ方が変わってくるかもしれないが、特別突飛なものではないと思う。
35	事業例として、他にどんなものがあるのか。	事業例は現在行っているものである。事業例ではないが、介護保険等の日々の事務を着実に行うことが、弱い立場の人々のためになっているものと思っている。
36	施策は、子ども、女性、障害者へのものであるが、事業例が施策と合っていないと思う。	現在行っているのはこの程度。今後施策に合った事業を検討していきたい。
37	P12(2)-②-イについて、障害者雇用と障害者の職場定着は重要な課題である。これについての考えはどうか。	色々事業を挙げているが、大事なのは職場の周りの人の気持ちだと思う。特例子会社誘致も大事だが、既存の会社の方たちの気持ちが障害者の方へ向くような啓発も強化していきたい。
38	啓発的な文言も入れた方が良くと思うがどうか。	協議する。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
39	2次素案となり細かな施策と事業例が示された。「はじめに」の中で高い理想を掲げとあるが、施策案は現在行っている施策に「推進する」や「強化する」というような文言をつけているだけに感じる。10年後の横須賀市のための計画がこのような形でよいのか。	文言についてはこれから整理する。基本計画は、今後発展していくために10年間でさらに力をいれていくもので、事業は実施計画や予算で示していく。
40	「高い理想を掲げて」とあるが、2次素案の大柱3と大柱4の中で新たに入れた施策はいくつあるのか。また、それはどれか。	数は、すぐにこの場で答えられないが、この「高い理想を掲げて」とした意味は、厳しい財政状況の中ですべての政策を行うこと自体が厳しいがそれを高い理想として目指していくというものである。
41	10年先のことを決めるのは難しいが、これからの横須賀を築いていくためには、現在の施策の上乗せではなく新しいものを載せてほしい。現状からの「推進」や「充実」だけでは厳しいのではないか。ここに掲載された事業例は、現在のものと捉えてよいのか。	現在行っている事業である。「推進」「充実」に係る事業例は、実施計画等の事業として示していく。
42	基本計画をつくっても、全ては実施計画でやると理解してよいのか。	目指す施策の方向は基本計画で示す。その上で、その後の社会状況にあったかたちで、3回の実施計画で事業を示す。
43	10年の計画なので、計画の中で、現在から10年後にいくつにしたいなどの目標はないのか。	基本計画の中で目標設定はしていない。実施計画で3年間の目標を設定していく予定。
44	そうであれば基本計画をつくる意味がない。10年後の目標がなければこの基本計画はどのように使われていくのか。	基本構想、基本計画、実施計画の三段構造による計画づくりについて、ご理解願いたい。
45	理解できないから質問している。目標設定がなければ意味がない。基本計画は画餅になる。	基本計画が中長期の計画であるのに対して、実施計画は短期的計画としての位置付けがある。短期計画の中で具体的な事業を示していくという、計画行政のスタンスである。
46	10年先の目標が立てられないのであれば「高い理想を掲げ」などとせず、「3年ごとに目標を見直します」というような文言にすべきである。施策ごとの10年間の目標を設定すべきだ。3年ごとに見直していけばよいではないか。	今回の基本計画の見直しは、計画行政の中で必要なものだと考える。
47	是非、数値による目標設定をしてほしい。基本計画で無理だとしても実施計画でやってほしい。	今までも政策施策評価を行ってきた。実施計画では目標がなければ具体的な事業が行えないので、そのあたりを示せるように検討したい。
48	他都市の基本計画を勉強しているか。	他都市のものも参考に研究している。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
49	従来のものにこだわらず、他都市の良いところを取り入れ、市民に分かりやすいものにしてもらいたい。	
50	P14(4)-②-Aについて、現在の事業例とことだが、看護師不足の解消のため専門学校の新設を増やすなどの計画はあるのか。	看護師については現在のままで行く予定である。今後実施計画の中で検討していきたい。
51	看護師不足は現実問題である。10年後の計画を立てるのであれば、財政的に厳しいのもわかるが前向きに行ってもらいたい。	財政状況が厳しいが考えていきたい。
52	P14(5)-①-Iについて、現在の施策と変わらないことが書いてあるが、財政状況が厳しい中で、10年後に向けてどう充実できるのか。	10年後何をどうするまでは申し上げられないが、今後、組織のあり方や自治体の権限、町内会への支援の在り方等について、検討していきたい。
53	今後、基本計画完成までの間、市民の方も含めてどのような形で行われていくのか。	市民、子どもアンケート、車座会議等を行って様々な意見を頂いてきた。今年に入ってから総合計画審議会、本委員会(特別委員会)から意見を頂いている。今後これらの意見を生かしていきたい。また、市民会議、ホームページを使い多くの方々の意見を取り入れたい。
54	他都市の良い例(大分市を例)を参考にしてほしい。	
55	せっかく新しい10年間の計画を作るのだから、あり様をすっかり変えてみたらどうか。今までの形にこだわる理由は何か。	こだわるというものではないが、基本構想に基づく現行基本計画を平成22年に見直すという方針のもとで行っている。
56	方針自体に異論があるのではない。市民にわかりやすいものにあり方を変えることは難しくはないはず。基本計画と実施計画を分離しても分かりにくい。他都市は2層構造になっているところもある。市民に分かりやすいようにあり方を考えたらどうか。	施策全てに目標設定をするのは難しい。中柱、小柱単位で目標値を設定できるのかを研究したい。計画の見せ方については色々意見を頂いている。ただ、今後のスケジュールを考えるとこのままの形で行かせて頂きたい。
57	表記を分かりやすくしてもらいたい。また、施策に全てでなくても主な事業を入れることで分かりやすくなるのではないか。	分かりやすくする意味で事業を入れたいが、計画自体が議決事項であるため事業を入れると問題がある。分かりやすくするための見せ方としての掲示ならばできるかもしれない。
58	見せ方を工夫して頂ければ良いと思う。実施計画程の事業の予算額までは求めていない。計画の重点プログラムと施策体系との関係が分かりづらいので分かりやすくなるように工夫が必要ではないか。	重点プログラムは必要であると考えているが、見せ方や関係性について分かりづらいとの指摘も受けている。3次素案に向けて検討したい。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
59	施策を全て列挙するのではなく、選択・集中してもよいのではないか。仕分けした分野別計画と施策の柱をリンクすることはできないか。	選択・集中の意見があれば、反対側の意見もある。施策の見やすさ切り口や見方によって変わってくると思われる。分野別計画の扱いについても検討したい。
60	分野別計画も条例も体系を載せるのも良いが、柱ごとの関連性から絞って掲載するなど、他都市の計画を参考に検討してほしい。	
61	P14(5)-①について、コミュニティの支援は大切な要素である。これは、健康でやさしい心のふれあうまちの大柱にあるが、P25の「住民自治の推進」の市民主体のまちづくりもコミュニティである。このコミュニティを分散するのではなく一つの柱としてはどうか。自治基本条例もつくるので見直してはどうか。	P14のコミュニティは人々のつながりが政策目標であり、P25のコミュニティは街づくりの推進姿勢として捉えており、政策目標の違いがある。
62	大きく横断的に見ると全て住民自治につながるものだ。重要課題であるので市民協働、住民自治について一つの柱としてもよいのではないか。	課長が言ったように、人々の関わりとしてのコミュニティと、まちづくりの推進姿勢という切り口の違いがあるため分散している。このような場合の盛り込み方については、検討する。
63	住民自治の醸成や推進は、市の施策を推進することとは一致しない行政サイドの仕分けになっている。自ら作っていくのが自治であるので、その視点からもう一度考えてもらいたい。	ご指摘を踏まえ、検討する。
64	資料2-2の右端にある事業例は、スクラップもあり新規もあるということか。	ご指摘のとおり。
65	市民会議に出す資料では、この事業例はどうするのか。	市民の皆さまに具体的に分かるように、事業例を入れた資料とする。
66	別紙で構わないので、新規事業も分かるものを付けた方がよいのではないか。実施計画との関係もあるが、予算額を抜いたも新規事業でもいいので示すべき。現状の事業だけでは分かりづらい。	実施計画の案が間に合えば良いが、新規については市民の方に期待をあたえてしまうので定期的に難しい。
67	現状やっている事業例から施策ができているように感じる。本来、施策から事業が出てくるはず。また施策の数が多すぎる。例えば、P8(2)-①-ケの学校教育の施設整備をやるのは当たり前。せめて、公共施設はファシリティマネジメントでやるなどとしたほうが新しさを感じる。当たり前のことが載っているのは基本計画としてどうか新しいことを載せるべきでは。	各柱の切り口の中でこのような形で出てきている。同じような意見をいただいているので書き込み方について検討したい。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
68	P7を例として、子どもを産む事だけでに偏り、施策の切り口が行政が管理しやすくなりすぎているか。	ご指摘の通りかもしれない。計画として分かりやすくするなど、3次期素案に向けて検討したい。
69	答弁の中に「政策推進部と協議して」とあったが、どの様な方法で作成したのか。	各部局に素案や委員会での意見の内容を示し、各部局から原案をもらう形で行った。内容が重なったものは事務局とプロジェクトチームで調整し、各部局に確認するかたちで作成した。
70	この時期なので、政策推進部でとりまとめをするのは分かるが、各部局でもある程度内容について責任を持つべきではないか	最終とりまとめは政策推進部である。とりまとめ役との調整がいるという意味で各部局に責任がなくなったわけではない。
71	重点プログラムも含めて、市の目玉となる施策事業が分かるようにならないか。印象に残るようなアピールポイントがあっても良いのではないか。	重点プログラムの表現については色々意見を頂いている。各プログラムは順位を付けるものではないと考える。表現方法について検討する。
72	重点プログラムをダメと言っているのではない。重点プログラムと施策との関連づけが必要ではないか。	実施計画が進み事業が見えてくるとわかりやすくなると思う。重点プログラムの位置づけや見直しは今後行う。
73	重点プログラムの施策とそうでないものが、わかるようにした方がよいのではないか。	実施計画で新規の事業も出でるので、見せ方を考えたい。
74	P12(2)-②-アの事業例で「市長と話す車座会議」があるが、細かすぎるので消せないか。	現在行っている事実を掲載したもので、事業例の一つである。
75	広く市民から意見を聞くものは他にもあるはずで、あえてこの事業例1つをのせるべきではない。	色々なものがあるなかで代表的なものを掲載した。あくまでも参考である。
76	資料の中で使っている数値は2008年が多いが、今後もそのままなのか。	議案になる時は直近の数値に変更する。
77	平成21年度のものが入ってくるということで良いか。	そのように努力する。



No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
78	新しいデータの方が市民に分かりやすいと思って確認した。人口が減り財政が厳しい中で、市長の言う「夕張市にならないため」の選択はどのような部分から市民は分かる計画なのか。	基本計画においては、現状を捉えたうえで、これから10年間で何をすべきか必要なことを書き込んでいる。選択と集中をした上での2次素案となっている
79	直近の数値を入れると悪い数値が入ると予想されるが、市民はどのように受け止めると思うか。	以前から市債残高などは公表している数値なので公表する。同時に、持続可能な発展をとげる都市を目指すことをアナウンスする。
80	どの都市も財政難である。この10年間同じ状態を維持することも難しいかもしれない。その中で市民から良いといわれる計画にしてみたい。	基本計画の施策案は今後10年でやるべきことを載せている具体的な事業は同時にでることになる
81	表記の方法について、第4、第5章が表となっている。章の前に方向性や重点プログラムの要素を文章に入れるなどした方が分かりやすいのではないか。現在の状況をもう少し入れるべき。	P24以降の第4章、5章は、今回議論しやすいようにしたもので、そのまま原案とはならない。
82	P7(1)－②のエについて、放課後児童についてはただ子どもの居場所ということではなく生涯学習的な面も強いと思われるが横須賀市としての方向性も含めて確認したい。	こども育成部と協議、連携して今後の方向性を決めていきたい。
83	方向性を決めたいうえで新たな事業を展開するという点で良いか。	今後について、協議をして方向性を示し、表記の仕方を検討したい。
84	P10(4)－②は、横須賀市の子どもに芸術文化に触れさせる機会をもつための施設の有効利用が必要であると思う。他市の子どもにはないメリットを付けること、子どものための事業をいれるような方向性が必要ではないか。	(4)－③文化の担い手育成の部分の特にアの施策について、実施計画や予算で事業として入ってくる。
85	市内に住む子どもへの優先条件の付与についてはどのように考えるのか。	基本計画関連ではなく事業のご提案と受け取る。実施計画や予算の中で検討する。
86	P13(3)－①について、地域福祉計画などによる外部組織との連携は課題だと思うが。	地域福祉計画を展開していくためには地域の力を借りなければいけないものと認識している。
87	P7全般について、少子化は都市活力の減少に影響していると思うか、今後11年間に行うべき施策事業についてどのように考えるか。	全国的に見ても少子化の傾向は進んでいる、横須賀市においても同じ状況と認識している。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
88	少子化の傾向のことではなく、都市活力への影響を聞いている。	個人的に都市活力の低下に影響しているとはとらえていない。
89	素案のなかに少子化についての記述があるが認識はないのか。	少子化の傾向があるのは事実だが、緊急性があるものという認識はない。
90	少子化が都市活力の減少に影響しているという共通認識はないのか。	少子化の傾向は都市活力を低下させる一つの要因であると思う。
91	このような共通認識のツレがある中で基本計画は策定できるのか。	企画調整会議でこの2次素案を決定してるので認識は共通しているものと思う。
92	11年間にやらなければいけないことの認識が低いのではないかと、明確にすべき。P7の産科医不足などもっと課題を明確にすべき。	様々な機関と連携して働きかけていく必要があると思う。
93	子どもを産み育てやすい環境づくりについて、健康福祉部などの医師確保についての施策が抜けている。10年間の計画なのでもっと高い目標を持つべきではないか。	今回の施策案はこども育成部に偏った内容となっていたので、健康福祉部と連携した内容や表現を検討する。
94	P7に産科医の不足に対するものが必要と思うが、やらなければならないものと思うがどうか3次素案に入れてほしい。	大切なことであると認識している。柱ごとでまとめ方、分散の仕方、切り口の違が出てくる、医師不足対策に関してはP7ではなくP14の医療体制の強化充実の部分となっている。ご理解いただきたい。
95	理解できない。医師不足対策は子どもを産み育てやすい環境づくりの大きな柱ではないか、あっちこっち見なくてはいけない。掲載してほしい。	ご意見として検討させていただく。

【第4章 大柱2・大柱5】

No.	委 員	理 事 者
	発言要旨	発言要旨
1	自然環境の保全をするために、急傾斜地など山の緑で利用価値を見出すのが困難な土地などを寄付するには、本市として寄付を積極的に受け入れる方向で良いのか。	3月に見直しを完了したみどりの基本計画に、土木みどり部が運用している受納基準があり、新しい制度に発展させていくという位置づけがされている。基本的な流れとしては寄付制度を進めていく流れになっている。
2	寄付を受けたその後の管理、伐採など維持費がかかる。全部加味して受け付けると理解しているか。	個別の形状にもよる。一般論でいえば、一番の課題は維持管理経費と認識している。市民協働による管理の方向で進めたい。
3	次の問題として、買い取ってくれと来た場合はそれも検討するのか。	現段階で買い取りがあるのは、特別保全地区に指定され地区での対応がある。ほかは無い。検討課題とは認識しているが、そこまで広げるのは難しい。
4		補足説明として、市内に武山衣笠、大楠の2か所があり、近郊緑地特別保全地区に指定されている。その土地所有者が何か行為をおこす時には、近郊緑地特別保全法で買い取らなければならないということが決まっている。
5	P6の「④歩いて暮らせるまちづくりの推進」の中の「街中」とはどういうところか。	中心市街地や拠点市街地など、概ね人口が集中しているところである。
6	住み替えを誘導するとあるが、年齢層、若者高齢者層に関係無く誘導するのか。	日用品の購入とか、商店街が衰退し、高齢者が不便に感じているところから、できれば中心市街地に暮らしていただければ良いのかなと考えている。再開発などを進めていきたい。
7	高齢者を主に考えているのか。	特に指定して、高齢者、若年者という表現はできないが、住環境が難しくなっている方々に対して、住宅を整備していけば序々に中心市街地に集まってくると考えている。
8	定住促進も、街中に持っていくということでリンクしているのか。	住んでいる方が不便を感じるなら、中心市街地に。また地域のコミュニティを大事に住んでる方はその住環境の中で住まれる。市としてあっち行けこっち行けとは言えない。考え方として、中心市街地で暮らしやすい方向になると考えている。
9	誘導ということで、補助制度は考えているのか。	今のところ考えていない。
10	心配なのは、街中以外に不動産を持っている業者を圧迫するのではないか。	谷戸地区の空き家や駐車場など、所有者の考えも含めて人口が減少していく中調査が必要である。今年度から数年かけて調査して、対応も含めて検討していく。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
11	P4(1)-②-イの「公共施設の緑化推進」について、植樹の推進も含めると捉えてよいか。	民有地と公共施設に分けたのは、取り組みのアプローチの仕方が違うということ。イは屋上緑化とか壁面の緑化をみどりの基本計画の中で位置付けている。
12	敷地内の植樹の推進は含まれてないのか。	土地の形状で一概に言えないが、可能であれば植樹も含めて考えたい。
13	P5(2)-②に、時代のニーズに適応した農水産業の発展のための支援とあるが、後継者不足が深刻である。収入の確保があれば改善される。意欲的な生産者の支援も大事だが、それとともに後継者を育てる意味で、漁業で食べていけるために加工品製造への支援、農商工連携への支援などについての対応はあるのか。	農水産に限らず、製造業も商業も同じだが、収入を増やせれば防げる。農水産業もある意味で成長分野と考えている。成長の方向性として地産地消で収入を増やしていく。二つ目は加工品だが、名産品特産品づくりであわびの陸上養殖などは高齢者も十分対応できる。加工品やお土産品も相談していくことを考えている。
14	それがこの文言の中に感じ取れない。10年後を見据えた施策でなければいけない。高齢化が進む中で、文章の表現が足りない。	理解するが、商業、製造業、漁業も農業も同じ状況であり、乗り越えるための施策を考えていく。高齢者にそれぞれの場所で触れることはできないので、いい場所があれば検討していく。
15	農業に関して、出会いの場がなく独身で居続け、結果高齢化している。行政の支援に限りはあり書き込むのは難しいが、そういう視点についての所感はあるか。	行政としては難しいところあるが、地産地消の中には直接購買者と接する機会があり、従業員もいる。また農協の青年部との交流もできる。三浦市では収入のある農家にはお嫁さんが来ていると聞いている。所得向上も大事な条件になる。所得向上と消費者との接点の拡大を考えていきたい。
16	P6(5)-③「住環境の維持保全」の中で、大規模な開発行為が中断した場所への対応の仕組みなどの検討がある。これまでも検討していると思うが、「10年後も検討を行います」でいいのか。	現在も大規模が9団地ほど、小規模を含めると20団地ほど中断が起きている。許可条件の中で、資質、信用性も条件にあるが、さらに業者の質について何らかの担保がとれるような条例等を考えていかなければならないと思っている。
17	もう一歩進んだ表記が必要だ。今までも検討し、10年後も検討を行いますでは、単に検討で終わったということになる。もう一歩強い姿勢を出すべきではないか。	無くなった会社もあり、銀行が債権管理しているようなところもある。そういうところを優先し指導しているが、市が費用を出すわけにもいかない。一つの方法として、開発する前に保証金を預かり、何かあった時には防災対策に使うなども検討したが、実際は難しい。業者が逃げた場合、それなりの費用が市にもかかってくることも考えられる。いくつかの事例の中で対応できればと考えている。
18	難しいのは理解できるが、何もしないで何か起きた時には、手をこまねいていたのかとなる。決意のようなものも含めて、もう一歩踏み込んだ文言が必要かと考えるので指摘しておく。	

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
19	P15(1)-③-イの「被災地の広域避難」について、公園整備は大事だが、先ほど述べた植樹をしてグリーンベルトをつくるのが大事だ。公園整備に加え「植樹の推進」を入れたほうがよい。	事例に佐原2丁目公園整備がある。サッカー主体の公園だが、災害時には地域の防災拠点としての機能も持っている。防災機能のある公園整備では、樹林についても考えているので、この中に総合的に入っている。
20	順次整備していく中で、植樹のグリーンベルトをつくる必要がある。もう少し踏み込んだ表記をする必要はないのか。	P19-⑤で公園の整備がある。この中で安心安全な憩いの場となる整備とあり、この中に入っている。事例としても入っている。そのほかの公園もこのような状況を考えて施工していきたい。
21	P16(1)-⑤-アの「自主防災組織の活性化」。この中に、10年後を想定した場合、高齢者、災害弱者への支援を文言としていれるべきではないか。	実務として、既に民生委員協議会を通じて個人情報に留意しながら健康福祉部とともに、自ら避難できない人の名簿とか調整を始めている。自主防災組織に活動はできなくとも、精神的な支柱になったりすることはできる。そういう意味で活性化という言葉で包括している。
22	理解はするが、10年後の高齢化考えた時に、施策の中に「災害弱者への支援」という言葉が入るべきだ。	災害弱者という言葉は本市では「要援護者」としている。文章で入るところがあれば、施策として検討したい。
23	P19(3)-⑦-イの「市営住宅の管理運営」で、運営を計画的に行うとある。市営住宅の高齢化率が高くなってらる中で、バリアフリーとか独居老人の問題とかがクローズアップされてくる。その支援の文言がない。	公営住宅については、今年度中にストック活用計画をつくる予定。その中で考えていきたい。高齢者住宅もあるが、これも含めて計画の中で独居老人の問題も考えていきたい。
24	バリアフリーについてはどうか。	高齢者用住宅に移っていただくか、改修の中でどこまでできるかの問題があるが、考えていく必要がある。
25	高齢者住宅はそんなに無いはず。	一団地30戸である。
26	バリアフリーの問題は、ストック計画の中にあるのか。	まだ形になって無いので、ご指摘の点も含めて考えていきたい。
27	独居老人の問題は、顕在化してきていないか。	独居老人は確かに多い。周辺で声を掛け合うような組織できているところもある。県に管理を委託しているが、個別訪問するサービスも行っていこうと考えている。
28	県で独居老人調査するとの新聞記事を見たが、市も同じことを考えているのか。	調査というより、独居老人を個別に訪問することを考えている。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
29	10年後を考えると、独居老人に関する文言を入れるべきだ。	建物をどうするかという問題と、住む方の問題がある。状況に合わせて計画を立てていく必要があり、文言で表現できないか検討する。
30	P4(1)-③-アの「三浦半島国営公園の誘致」は、言い始めてからどのくらい経つ。	確か30年とか40年のオーダーと記憶している。
31	この先10年で可能性があるのか。現実味が無いものを載せておく必要があるのか。	国営公園を湘南国際村BC地区に誘致していこうという方針。要望活動を通じて、国の状況も厳しいと感じている。しかし、今、全国で国営公園整備が進んでいるが、これらが整備された後、次の国営公園として手を挙げていけば可能性はゼロではない。県、逗子、葉山、三浦と要望活動を進めていこうと考えている。
32	載せるのはいいが、次を考えてるとはいえ難しいと思う。政策推進部と相談して、切るものは切るという考えが必要だ。	国営公園の誘致は、首都圏を代表する三浦半島の纏まった自然を残そうとするもの。ここは姿勢として、11年間の計画に載せるべきと考えている。
33	「水際線に緑地や海浜を整備」とある。現実にとどの地域を想定しているか。	海浜は、走水、馬堀海岸の先のところの高潮対策。緑地については、長浦、久里浜東部を考えている。
34	実施計画で出てくるのだろうか、計画的の10年間で緑化が進むことを是非願う。	
35	P4(1)-①-ウに「無秩序な」という言葉があるが、どういう意味なのか。	ほとんど許可なしに資材置場などをつくっている状態のこと。パトロールなどで対応しているが、それをさらに強化するという施策である。表現の仕方は検討する。
36	P6(4)-②-アの「労働環境の改善」に関する支援は、どのようなことを想定しているか。	「ひとびと三浦」では福利厚生をやっている。ミニマムなどところでは、トイレを男女別に分ける対策への支援を検討している。
37	市の補助制度を連携して考えていくのか。	補助制度をやる方向も含めて考えていきたい。
38	是非、補助制度を検討してもらいたい。	トイレの問題や劣悪な空調など、可能な範囲で補助制度の検討進めていきたい。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
39	P6(6)-②-イで「早期転用の推進」とあるが、転用計画はあるのか。	話し合いは進めていくが、計画ではない。
40	早期に転用と書いてある。返還されてから何か計画しようでは時間がかかる。例えばAという施設の返還を要望するなら、同時にどうやって利用するかも考えておかないと、「早期転用」という言葉と食い違う。	国の情報をもらいながら、こういう利用をしたいから返還して欲しいと要望するのが良いと考えている。旧軍財産の場合は一旦普通財産になるので、その情報を早く入手した上で、各部局と相談しながら利用を考えていく。これを早期に転用ということで表現している。
41	11年のスパンの中でどの場所を想定しているのか。	具体的に話が進んでいるのは大矢部の弾庫。
42	返してもらう場合は、裏の法面も市が買い取らなければならないという条件があったと思う。その話は続いているのか。	続いている。
43	早期転用に向けて、是非、実行してほしい。	具体的業務として進めていく。
44	P15(1)-③-エの「海岸高潮対策と侵食対策」は、国の補助事業か。	ご指摘のとおり。
45	北下浦、野比の侵食はひどい状態。市単独で実施するという考えはないのか。	現時点でははない。しかし、緊急性のあるところは、場合によっては市単独でやる場合があるかもしれない。
46	市民の安全を守るためにも、国に働きかけて是非早めに進めてほしい。	国への働きかけは続けていきたい。
47	P17(2)-②-エの「救急医療センター」については、前回定例会で議論があった。機能強化とは、どう理解したらよいか。	この部分は、建物のハード整備と診療科のソフトの両方が入っている表現である。
48	市長が本会議で話した以上のことは担当部長としては言えないだろうが、現在の場所でやるのか、あるいは新港に移転するのか。	申し上げられる段階ではないが、医師会との話し合いを事務レベルで進めている。今年度中と市長も答弁しているが、できるだけ早く結論を出していきたい。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
49	利用率も高く、市民が待ち望んでいる。是非早く進めてほしい。	
50	P18(3)-④-ウの「放置自転車対策」。各駅の駐輪場の整備はかなり進んだが、まだ計画があるのか。	JR田浦、京急の安針塚と長沢の3か所について、今後設置していく。
51	鉄道利用者が、安全快適に利用できるよう、是非早めに改善されるよう要望する。	
52	P5(3)-①-アで、新たな事業展開や技術開発とか、ウで意欲ある中小企業とある。倒産閉店が相次ぐ中で、意欲があっても続けていくことが困難なところへの支援はどうなっているのか。体力のあるところはより強くなるが、そうでないところは支援してもらえない、そのようなことを市が助長していいのか。	厳しい状況の中、そういった方々がこれからも事業を継続し、事業者として発展をめざさなければならぬ。様々な緊急経済対策を打って、金融支援も幅広く実施してきた。大変な業者も救われるような環境をつくるには、まずは、元気なところがレベルアップしていかなければ、まち全体をけん引していくことはできない。
53	元気なところがレベルアップすればまち全体が元気になるというのは、考え方が違う。家族経営の事業者は市内従業員が100%だが、市が補助を金使い誘致した企業は3割だ。	
54	P6(5)-②-アの「商業集積」とは、大型店のことを言っているのか。	魅力ある商業集積とは、消費者のターゲットも変わってきているため、意欲ある事業者、事業者を支援していこうという考えである。
55	商業においても、魅力あるとか、意欲あるところに重きを置く考えなのか。	ご指摘のとおり。
56	高齢者のために一日も長く店を開けていこうとするところの支援がイに書いてあるが、バランスはどのようなものか。前素案では、調和がとれたとあったが、どちらに軸足を置くのか。	商業は消費者に選ばなければいけない。地域の商店街もチャンスは増えてくる。チャンスを生かすのがアの方で、イでは、やすらぎとか会話の場として高齢者を顧客とする事業者、商店街を支援していく。
57	プレミアム商品券も大型の商業施設に流れていった。困難をかかえているほうに軸足を置くべきだ。そうでないと活気あふれるまちにならない。その辺りのバランス感覚はどうとるのか。	プレミアム商品券は、生活支援、消費者が使いやすいという観点に立った。バランス感覚でいえば、今年度は商店街が自分でやることになる。地域の人たちが使いやすいという観点でやる。消費者に選ばれる商店街のための支援をやっていく。
58	実施するにはハードルが高いと言う商店街もある。ハードルを低くすることが、基本計画の思想でも貫かれていかなければ格差が広がり、活気あふれるまちにならない。体力のないところに手厚い基本計画であるべきこと要望する。	



No.	委 員	理 事 者
	発言要旨	発言要旨
59		先ほどの鈴木議員のご指摘、P16(1)-⑤-アの部分に文言を入れる件だが、要援護者については、④-アの「総合的な防災対策」の中の地域防災対策の中で位置づけている。今後10年で検討していくが、文言入れるかどうかは、政策推進部と相談するという答弁に変えさせていただきたい。
60	P4(1)-①-キの「河川や海辺の保全」。河川親水施設のネットワーク化とエコタウンポートはどういうものか。この先10年で何をやるのか。	河川については、前田川遊歩道、関根川親水施設、関根わたり川遊歩道がある。これらをネットワーク化する。
61	点を繋げるとのことか。	財政的な問題はあるが、直営でできるものは調査し、将来的につなげていこうとするものである。
62	エコタウンポートは。	港湾計画と港湾環境計画にあるもので、身近な海を知り親しむための体験型イベントとして、浦賀でシーカヤックの体験、走水でシュノーケリングによる海の観察会などをやっている。保全という観点では、アマモの再生を市民協働で行っている。これらを継続する中で、子供たちの海に親しむ心を育てていく。
63	具体的に聞くとわかるが、キの表記ではわからない。具体的な表記をできるだけしていくのが大事である。	
64	P4(1)-②-アの「民有地の緑化」は、これから制度を構築していくのか。	みどりの基本計画の中でそういう表記をしている。
65	みどりの基本計画という文言が入ればわかりやすい。ウの「里山的な環境の再生」とは具体的にどのあたり。	緑比率調査の中で具体的候補地を探していく。今整備されているものを面的な広がりや活用策を考えるのが現実的と考えている。
66	P4(1)-③-ウの「海と緑が調和した潤いある海辺空間」とはどういうことか。	沿岸域は、水面下もあり一体となったものとして考えるということ。
67	具体的にどのあたりか。	走水の砂浜の再生は、背後に防大の山や水源地があり一体のものだ。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
68	それならば、海浜の再生とわかりやすい表記でいいのでは、工夫願いたい。	政策推進部と検討する。
69	P5(2)-②-アの「時代のニーズに適応した農水産業」とは何か。	地産地消や食の安全、また新鮮なものを消費者が望むことへの対応など、時代のニーズに適応した農水産業の発展と考える。
70	それならば、具体的にわかるよう表現を工夫すべきだ。	政策推進部と協議の上、検討する。
71	P5(3)-④-イの「消費促進」、「イベントによる集客促進」は、前の部分の交流と重複する。少し整理をすべきではないか。イベント等によるものは、ビジネスチャンスの拡大というよりは交流だ。	どちらも同じ重みをもってる。イベントは経済効果という気持ちも強い。分かりづらいということであれば、政策推進部と相談する。
72	どちらにも載せたいというのは他にもあると思う。もう一度見直しをして、集約させていくともう少し簡略化される。3次素案に向けて整理してほしい。	基本計画には5つの柱がある。どこに軸足を置くかだが、分類の仕方が「いきいき」から「安全安心」まで、分野横断的な切り口になっている。どこに入れるか再度調整をしていきたいが、基本的な柱立ては動かさないで、どこに軸足を置いたかわかるようにしていきたい。
73	一番はわかりやすさだ。誰が見てもわかるということを大きな方針として、表記の工夫を願いたい。	心がけていく。
74	P6(5)-②-イの「高齢者を顧客とする事業者」とは。	はつらつシニアパスがあり、はつらつシニア応援店舗は100以上ある。さいか屋なども高齢者の方が多い。高齢者の方を顧客ととらえる事業者支援していく。
75	P6(5)-③-ア。住み慣れたところからの住み替えは現実的ではない。秋田、青森とか過疎地域で中心市街地に移る政策は承知している。横須賀にあてはめるのは本当に有効なのか。	谷戸の空き家の状態は、昨年4地区で調査した。空き家は市内では6%だが、一部13%超える地域があった。空き家の状態に変化が起きている。長崎では市が買い取り公園にする施策がある。購入は難しいが、環境の良い谷戸もあり対応策はこれから検討する。
76	高齢者が歩いて買い物に行けなという問題もでてきている。住み替えを前面に出すのではなく現実的な政策を考えるべき。	住み替えは行き過ぎかもしれないが、商店などが減り自然にそうなることもある。今は買い物の配達などもあるので、それぞれの状況を考えていきたい。ただ、住み替えの表現は検討していく。
77	P6(5)-④-アの「計画的な土地利用」は、実際どういうことか。	区域区分の検討である。市街化区域と調整区域の見直し検討を行うこと。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
78	P6(6)-②-アの大矢部弾庫だが、きちんと明記すべきではないか。	実施計画の中で示していく。
79	完全にわかっている部分を明記してなぜいけないのか。未利用地は他にいくつも無い。わかりやすい計画からはずれる。	この件は、早期転用を図るという言葉で進めたい。
80	表記できるところは具体性を持たせることが大事ということは述べておく。	
81	P17(2)-②-エの「救急医療センター」は、今年度中に方針確定とのことだが、3次素案ではそれなりの表記になるのか。	今まだ未定の部分がある。時系列的な問題は政策推進部と相談する。
82	ぎりぎりでもいいから、載せるという方針を持つべき。決まった時点で盛り込むということは確認しておきたい。	スケジュールとしては、今の審議事項を3次素案として総計審にかけて、来年の第一回定例会に基本計画として上程する、その前のパブコメ前に原案をつくる。文言の修正は議案になるまで配慮する。
83		先ほど申し上げた長崎の例は、市が寄付を受け解体費用を市が持つという内容だった。訂正させていただきます。
84	P4(1)-①-キと③-ウについて、川と海浜の記述はあるが、海全体への言及が無い。この点について基本計画には入れないということでもいいのか。	海全体という切り口でいうと、P182-5-(3)-イで「下水道事業の効率的な運営」があり、ここで公共用水域の水質向上も見ている。
85	親水性を高めるとかであがってくると思うが、2-(1)-③-ウで近い話あったが、一か所やればいい話ではない。交流でも遊び場があるから市外の方も来ていただける。トータル的にあまり海が入って無い。市長の答弁にも親水性の水辺という内容があった。この辺りが入らないと横須賀にとってアピールポイントが薄い。	どこに入れるかといった問題もあるが、全体を見て親水性は大事なので、親水性で人が集まり産業が興るといったトータルで読み込んでいく。わかりにくいということであれば別の形でアナウンスしていく。工夫はしたい。
86	基本計画を読んで市民がわかりやすいよう対応願いたい。	わかりやすさを意に止めて進めていく。
87	P5(2)-②-アの「意欲のある事業者の支援」だが、農水産業は新規参入が難しい分野だ。法人はできるなど規制緩和が進んだが、この先、一般の人の新規参入への支援があってもいいのではないか。	やや参入障壁が減っているが、10年後に無くなるわけではない。地産地消とか計画に書いたことをしっかり進めて、繁盛すれば人の工夫がでてくるという状況を作ることが第一と考えている。10年間の目標としたい。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
88	新規参入は書きづらいと思うが、実施計画の中で盛り込むとか是非検討願いたい。(3)-③の「起業支援」だが、設立した時の支援はあるが、創業後2～3年の支援が何もない。副次的効果を期待し、連携とるとかの再支援が必要ではないか。	創業後の2～3年確かに苦しい。できるだけ取り組むように努力する。
89	P6(5)-③-アの「谷戸地域対策」だが、谷戸地域と空き家と一緒にになると分かりづらい。2つに分けてはどうか。	市街地の空き家を紹介するということもある。表現は少し整理する。
90	市内に2万戸以上空き家がある。そのうちの7割が谷戸で、2～3割が市街地にある。一緒に考えると施策が出てこない。関連してるのはわかるが、切り分けて施策を考えるべき。	文章と考え方を少し整理する。
91	P18(3)-①-アで「安全でおいしい水」とある。鉛管の解消は10年で終わるのか。	最終目標は平成39年を目標にしている。
92	数値目標はあったほうがいい。市民が見て10年で終わると思ってしまう。	上下水道マスタープランで示している。現在改定中だが、その中でも示す。
93	P19(3)-⑦-アの「市営住宅の管理運営」だが、公営住宅は市と県で9000戸ほどある。今後10年間で適正化や減少もあり得ることを入れてはどうか。	整理は考えている。表現は検討するが、これからストック計画を立てるので、整合性を図っていく。
94	救急医療センターの方針は、今年度中に決まれば、基本計画に盛り込むとのことだが、市営住宅についても、プランが決まれば基本計画に反映させるべきと考える。	現在、概要的なのができているので整合とってやっていく。
95	基本計画冊子は市民配布を考えてるのか。	全世帯には配布できない。アナウンスの仕方、工夫していく。ダイジェスト版もあわせて考えている。
96	なかなか市民の目には届かない。ダイジェスト版も市民の目には届かない。	冊子自体は限りがある。全ての市民に知っていただきたいという気持ちは同じ、市の姿勢もそうあるべき。アナウンスの仕方を工夫していきたい。
97	基本計画は皆の思いの結集であり、できれば市外の方にも横須賀のいいところを発進してもらいたい。	

No.	委 員	理 事 者
	発言要旨	発言要旨
98	自然豊かな横須賀だが、人間以外にもあらゆる動植物と共存している。しかし、動物という観点から施策には見られない。予算にはドックランやアマモという言葉があるが、ペットの役割や外来種の被害もある。こういったことも入れられないか。	P42-(1)-①-オで「自然環境や生物多様性の保全」を位置付けている。これは横須賀の自然は大切なもので、生物もここで謳っている。ドックランなどは、公園整備など別の場所で見えていく。
99	P18(2)-④の「交通安全対策」。歩行者にやさしいまちづくりという大きな観点だが、歩行者のモラルや放置自転車対策が挙げられている。10年間目指した計画としては、施策が小さいのではないか。	確かに小規模な考え方だが、エの「交通安全施設に関する国・県との協議」は非常に重要。大きな観点から目標をある程度決めて、この辺りを利用して、今の指摘に少しでも近づけていきたい。P19にも「道路・交通環境の整備」があるので総合的に考えていく。
100	有言不実行では正しくない。市民に対し、夢のある希望の持てる記載方法にしてほしい。	
101	P17-①-イの「放置自動車」は、どういう方向性で進めているのか。	警察と連携し、すみやかな撤去に結び付くような活動を行っている。
102	すみやかでは抽象的。明確にしていくことで促進できる。	警告でいなくなることもある。見つけ次第すぐ対応する。
103	一般廃棄物の不法投棄もある。早急にやることを計画の中で謳うべき。	発生防止と適正処理というところで、表現して活動する。
104	P17(2)-①-キの「公衆トイレの安心安全」は、有料化とか真新しいこと考えているか。	市内には22か所の公共トイレがあり、老朽化しているものもある。例えば、観音崎の駐車場の中にあるトイレは、新しくしても効果がない。新しくすると改修するところ、メリハリつけてやっていく。
105	公共トイレは他の部署でもある。横断的に対応してほしい。	管理は環境部だが、横断的に調整しきれいなトイレ目指したい。
106	P19-(3)-④-ウの「狭隘道路」は、10年でどうしていくのか。	寄付をもらい4m道路として整備していく。制度の評判は良い。今後もこの制度を使っていく。
107	もう少しPRして、確実にやっていく必要がある。	PRを含め、良く話し合っていていきたい。

No.	委 員	理 事 者
	発言要旨	発言要旨
108	P19(3)-⑦の「市営住宅の管理運営」は、大局的にこの先10年間どうやってくのか。例えば、もう作らないとか。	市営住宅には適正な戸数がある。数はそれなりに整理していきたい。また、耐震化についても考えていく。
109	民間の賃貸住宅があまっている。これをうまく活用するなど、棲み分けを考えるべき。	民間の借り上げについても検討はしていく。適正な戸数、状況を見据えながら計画を立てる。
110	政策推進部長の意見も聞きたい。	先ほど来、市営住宅のイのところは適正な表現をしたほうが良いという指摘があった。また、アのところでも民間の利用という指摘もあった。二つを合わせれば、計画的な維持管理について、アの部分で読み取れるものと考えている。
111	P4(1)-①-カの「エコツーリズムの推進」は、具体的にどのようなことか。	港湾部や環境部が行っている自然と触れ合う体験型の事業であるが、今後統合的なメニューにして、1年通して参加できるように進化させていく方向で検討している。
112	他の部もあるか。	土木みどり部では、猿島の観光ガイドの活用などがある。
113	馬堀の蛍もある。見て触って感じてもらうのが大事なこと。是非、推進してもらいたい。	エコツーリズム法に4つの大きな基本理念があるが、蛍とか、もっと細かいことも考えてやっていく。
114	P5(2)-①-イの「地産地消の情報発信」は、様々な媒体とあるが具体的にはどういう媒体なのか。	定番としては、紙媒体。この他に商工会議所とよこすか一番地産地消というホームページ上でのアピールがある。マスコミや電波にも取り上げてもらうよう心がけていく。
115	11年間の計画の中で、今後の情報発信の発展をどのように考えているか。	モバイル系、携帯、ツイッターとか新しい手法も検討し、取り入れていきたい。
116	普遍的な情報発信があつていいと思う。そういった意味で最近、横須賀ウォーカーが出たが、影響力どう感じているか。	ゴールデンウィーク中のどぶ板通りの人出に驚いた。紹介されたバーガーショップは全て人が並んでいた。すぐに反応があるものだと感じた。
117	政策推進部長の意見も聞きたい。	発進する手だてとして「人」ということも重視している。人を呼んで良さを知ってもらって、外に広めてもらう。媒体というのは、そういうことも含んでいると思う。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
118	人は、興味のあるものには触れたいし、見たいし、知りたいと感じるものだ。今一度そういうところを見据えて様々な取組みを推進してほしい。	考えは同じで、見据えて考えていきたい。
119	P6(5)-③-ウの「大規模開発が中断している地域への対策」の件。現在も20件ほどあるということだが、現在の進捗状況はどうなっているのか。	大規模は9か所ほど。現在の対応としては、雨の時などはパトロールし、連絡のとれるところは指導している。また、場所によっては次の業者との話を進めているところもある。
120	連絡とるのはあたりまえだが、問題解決が不可能な案件は何ヶ所ぐらいあるのか。	すべては把握していないが、次の業者と話し合いが見つからないところが何件かある。また、許可条件の引き渡しが進めば動けるようなところもあると聞いている。
121	問題が起きた時に困るのは住民。脱法行為があった時、キッチリと取り締まりが行われないう実態が続いてきた。わかっていて脱法行為を止められないというのが現実。これについて思いを聞きたい。	開発申請の段階で業者の資質、信用を十分審査して、工程管理をしていかなければいけないと考えている。また条例の見しができる部分があれば、それも対応していきたい。
122	さきほど来の話で、基本計画の見せ方についているが、見られ方から考えていくのがいいと思う。	総計審からも意見もらっているので、検討する。
123	P4(1)-③の「自然豊かな公園緑地の整備」だが、整備だけでなく維持管理があるはず。維持管理が弱いため、入れたらどうか。	整備のところには市民協働入れたらどうかとの質問か。
124	維持管理の費用のかけかたとかを盛り込んで、整備を考えてるのか。書き方が弱い。	P19、2-(3)-⑤の「公園整備」で、身近な公園の中に住民との協働などが入っている。
125	違う柱の安全で快適にくらせるまち入っているということか。	市の維持管理の持ち出しだけでなく、大きな意味で市民と協働で維持管理を考えていく。
126	P5(3)-②の「企業・研究開発機関などの誘致」に、産、官、学の連携が入っているのか。	入っていない。産・官・学の連携の考え方としては、YRPでもやってるが、全体のインフラとして考えていきたい。
127	入れてもらいたい。そのほうがわかりやすくもなる。	必ず入れられるとはわからないが、考えさせていただく。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
128	P6(5)の「市街地のにぎわいづくり」は、ハードの側面が強いと思う。新港の誘致も含めソフト面の記述を願いたい。中心市街地は横須賀にとって重要だし、横浜元町のようなコインパーキングのニーズ高い。そういう声は届いているか。	総合計画審議会の中では、駐車場が足りないという意見はでている。
129	中心市街地への支援が足りないと思うが。	下町地区や久里浜、浦賀は、まちづくりのアドバイザーを派遣する事業を行っている。
130	経済部や都市部が連携して、全体を捉えた対策を検討すべきではないか。	都市部でできる範囲のものをやって、経済部や政策推進部に相談していく。また商店街の意見なども聞きながら進めていく。
131		各所管の範疇、技術的なこともあるし、政策的なこともある。政策推進部が調整をとりながらやっていく。
132	P6-(5)-④の「区域区分の検討」。いつ見直しを考えているのか。	おそらくその4年後ぐらい。決定するのは県。県と協議しながら必要であれば見直す。
133	P17(2)-③-「防犯対策」。警察機能が新港に移るが、交番機能は今の場所に残るのか。	県警の配備態勢は、県警が十分検討の上決めること。
134	P19(3)-④-オの「交通の円滑化」。この施策では、谷戸や高台の交通システム等を考えているのか。	PTPSやバスロケーションシステムは、平地の対策。
135	谷戸の交通対策は、どこで見ているのか。	高台や谷戸などの高齢者対策については、P18(2)-④-オの「セーフティーロード事業」で、高台の手すりなどを見ている。
136	P18(3)-①-アに「安全でおいしい水」とある。おいしい水なら、高度処理の言葉入れなければ意味ない。	厚生労働省の諮問機関である「おいしい水研究会」がとりまとめた概念を使用している。
137	わかりやすい言葉を使うべきと言っている。国が使っている言葉とどう関係があるのか。	水道水には残留塩素などいろいろな基準がある。厚生労働省が研究し取りまとめたので、これを使用した。



No.	委 員	理 事 者
	発言要旨	発言要旨
138	直したくないなら、膜による処理とか言葉を入れたらどうか。	文言の修正は、政策推進部と調整する。
139	政策推進部長もわかりやすい言葉と言っている。アセットマネジメント手法とは。	アセットは資産財産のこと。耐用年数過ぎたら変えるのではなく、調査しながら管理をしていくというのがアセットマネジメントの概念。
140	この言葉はわかりやすいか。	表記については検討する。
141	今後、3次素案が出てくる。多くの方が理解できる言葉かよく精査したうえで、提出してもらいたい。	表現、言葉はわかりやすいものに心がけていく。ただし、バリアフリーなど一般的になったものや、アセットマネジメントのように日本語に訳すと難しくなる言葉は使っていきたい。現在の冊子では言葉の定義が最後にのっているが、わかりやすい場所に解説つけるのも一つの方法と考えているので、適正な形になるようわかりやすさを追求する。
142	解説を読みながらでは読みたくなる。別のページ読んで戻るとするのは市民に不誠実。良く検討してほしい。	

【第4章 大柱1・第5章】

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
1	P.1(1)-①-ア について、「明確なイメージづくり」とあるが、どういう意味か。	横須賀のイメージを明確に打ち出そうということ。具体的には、東側の「都市的、歴史的な環境」、西側の「自然、田園」という2つの側面が横須賀にはある。これらをしっかりとアピールしていきたい。
2	横須賀は長いこと「海と緑」で謳っていたが、これを方向転換するという事か。	方向転換はしない。「海と緑」は共通なものであって、その上で「東はこう、西はこう」というものを打ち出したい。
3	東にも猿島など海や自然がある。東は都市的と明確に分けてしまってもいいものか、精査してもらいたい。	
4	P.1(1)-②-イ について、「西海岸沿いに観光ゾーン」とあるが、イメージとしてはどのようなものか。	長井、佐島など自然の海岸線が残されている地域を「アーバンリゾート」とし、滞在型の観光施設あるいは自然を活かした観光施設などを位置づけていきたい。
5	滞在型ということで、宿泊施設などを含んだものというイメージでいいか。	技術的には地区計画なども絡んでくるが、そういうものを目指していこうと考えている。
6	P.1(1)-②-ウ で「10,000メートルプロムナードの整備・活用を推進します。」とあるが、整備できるところは整備し終わったと理解している。まだこれから整備を続けていくということか。	特に平成町地区のモニュメントについて、土木みどり部で保全するもの・廃止するもの等の整理を進める。また、リーフレットや掲示板などPRに関連したものを考えている。
7	未整備の区間をつなげていくという事ではないのか。	大津漁港、走水から先等が未整備だが、計画自体はあきらめる訳ではない。整備に向けて努力していきたい。
8	P.2(2)-①-イ の「プロモーション活動」としては、どのようなものを予定しているのか。	事業例にある通り、交通事業者(京急、JR、NEXCO等)とのタイアップやメディアによるPRなどを考えている。 また、市外からの観光客に関しては、エージェントを呼んで横須賀を案内(宿泊含む)して魅力を知ってもらうことや、観光事業者を集めた商談会、各地域に出向いた営業活動などを行う。
9	海外からの観光客(基地関係を除く)は、年間どれ位来ているのか。	現在把握できてはいないが、海外については計画の後半で取り組んでいきたい。海外からの観光客に関しては、現在横浜でさえも通過されている状況だ。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
10	新たな集客担当も配置されたと聞いているので、頑張っていたきたい。	
11	P.2 (2)-②-ア の「観光マップの配架」について、配架とはどういう意味か。配布でもいいのでは。	配架とは、配るのではなく、ラックに置いてご自由にお取りくださいということで、駅などに置かしてもらっている。 表現として違和感がある場合は、修正していきたい。
12	あまり聞きなれない言葉でもあるので、分かりやすい言葉を検討していただきたい。	
13	施設案内板について、経済部で所管しているものは現在どれくらいあるのか。	経済部ではハイキングコースの案内板などが中心で、一桁程度である。
14	では、他に案内板を所管している部署はどこか。	10,000メートルプロムナード関連は文化振興課で設置した。また、案内板ではないが、広報課で市の広報掲示板として400数十箇所設置している。
15	古くなっているものもかなりあるので、全体として案内板の見直しは必要ではないか。	どこがどういったものを所管しているかを含めて、まずは調査していきたい。
16	P.24 (3)-①-カ の「外郭団体改革」について、現在外郭団体はどのくらいあるか。	現在、総務部で外郭団体改革の対象としているのは11団体である。
17	「社会環境の変化に対応した・・・」とあるが、役目を終えた外郭団体をこの計画期間で改革、縮小していこうということか。	平成25年の公益法人改革を契機としながら、11年間でではなく、それぞれの団体の状況を考慮しながら改革を進めていきたい。
18	国でも事業仕分けなどで取り組んでいるので、ぜひ改革を進めてもらいたい。	
19	P.1 (1)-②-カ 「スポーツを通じた交流拠点となる公園」とは、市内外の人を呼び込むということでいいか。	おっしゃるとおり。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
20	事業例に佐原2丁目公園とあるが、これはサッカー場を作ることではないか。	本格的なサッカー場を作ろうというのがメインになる。
21	多くの人を呼び込むためには、今後10年先を見据えて県大会、全国大会が出来るようなものを作っていた方がいいのではないか。	予算を比較しながら検討していきたいが、ハイグレードとまではいかない。
22	現状では難しいと思うが、10年先を見据えた計画ならば、サッカーでもプロ・ノンプロのチームを目指すなど夢を持たせるようなものを盛り込んだ方がいいのではないか。	平成21年度にワークショップを行い、公募市民、サッカーの専門家、地域などが参加して意見交換を行った。 今年度を実施設計を予定しているので、その意見なども活かしていきたい。
23	P.3 ④-ア の「港湾機能の強化」は、具体的な計画があるのか。	事業例に挙げている長寿命化計画として、老朽化した港湾施設の調査を行い、機能保全工事を計画的にやっていきたい。これによるコストの削減や更新費用の平準化をはかることで、強化としていきたい。
24	コンテナヤードなどの物流拠点を作るなどではないのか。	コンテナヤードは今のところ考えていない。 また、施策案における「再編」として、東京湾における横須賀港の役割のあり方を考えながら、市内の埠頭を再編していきたい。
25	周囲の状況から取り残されないように注意していただきたい。	
26	P.21 (1)-① では、市役所内の個人情報の管理等も含まれていると考えていいか。	おっしゃるとおり。
27	イ の「個人情報保護の充実」では弱い。個人情報の漏洩がないようにするという強い意思表示を示す表現が必要ではないか。	ご指摘は当然だと考える。表現について検討したい。
28	P.24 (3)-①-オ について、滞納では払える払えないの不平等も問題となる。市役所として、その不平等をなくすという強い意思表示を示す表現が必要ではないか。	おっしゃるとおり、公平性、納税義務、受益者負担などの観点から対処が必要と考える。表現について検討したい。
29	P.1 (1)-①-ア について、先ほどの答弁における東と西のイメージと、基本構想における「国際海の手文化都市」のイメージとはどういう関連性があるのか。	「国際海の手文化都市」の中に、東と西のイメージも当然含まれていると考えている。 その他にも国際的なイメージなどがあり、場面や対象に応じて、複合的に使っていこうと考えている。

No.	委 員	理 事 者
	発言要旨	発言要旨
30	国際性についてはどのように考えているか。	横須賀は既に国際的という強いカラーを持っている。集客においては、ネイビーバーガーなどの細かな手法を使いながら、今あるものをいかにアピールしていくかを考えている。
31	国際性について、基本計画の中で打ち出す施策としてどのようなものを考えているか。	「いきいきとした交流が広がるまち」の中で、国際性とは建物や見栄えではなく、「人」であると捉えている。 P.2③-ア にもあるとおり、交換留学生など姉妹都市・友好都市との交流を推進していきたい。交換留学生には市のイベントにも積極的に参加してもらっている。
32	P.1 (1)-②-イ で、観光ゾーンと位置づけるのに、アーバンリゾートという記述はあえて必要なのか。イメージにそぐわないように思う。	横文字ではあるが、分かりやすい言葉であると思う。昔からある自然環境を活かしながら、ゆとりや休養を求めるといった滞在型のイメージを持たせたい。あえて漢字で表すと「滞在型保養地」のように堅くなってしまう。
33	P.2 (1)-④-イ の定住促進について、雇用の場や子育て支援・教育環境の充実がなければ、本当の意味での定住とならない。それらもトータルで施策として位置づけなければいけないと思うが、どう考えているか。	ここでは、定住を促す仕掛けづくりとして述べている。他の大柱で打ち出した施策とあわせて、基本計画全体で捉えていただければと思う。
34	P.21 (2)-①-ア で、「職員一人ひとりが意識を持って・・・広報活動」とある。これは、職員一人ひとりが市の施策のPRマンとなることを、この計画の中で目指していくということなのか。	広報の媒体として、口コミが非常に重要である。職員一人ひとりが広報マンという意識を持って、横須賀市のいい面を発信していこうというものがある。
35	素晴らしいことであると思う。方法や、職員の意識改革の取り組みとしてどのようなものを考えているか。	事業例の他にも、例えばこれからはツイッターもツールの一つとして考えられる。具体的にどのような行動を取っていくか現時点で持っているわけではないが、検討していく。
36	P.21 (2)-②-ア で市民意見とその回答をホームページで広く公開とあるが、目安箱もこの中に含まれるのか。	目安箱についても、市民の声データバンク「VoiceBank」に載せて公開している。
37	P.24 (3)-①-エ で歳入確保のため未利用地等の活用・処分が挙げられているが、公有財産の有効活用もここに位置づけられるのか。	全て処分という訳ではなく、適切な施設利用も図っていく。
38	広告事業の推進も、今後歳入の確保として大きな位置を占めてくる可能性もあるが、ここで位置づけられると考えていいのか。	ご質問のとおり、例えば市民便利帳などの広告事業もここで含まれる。
39	P.24 (3)-① について、未利用地の貸出しなども財産管理として単に期間で区切るのではなく、より柔軟にできるよう今後10年間で検討できないか。空いているのになぜ使えないかと思う市民もいる。	収入の増を図るという観点からも、有効的な活用を図ることは必要である。利用せずただ持っているだけというのは管理上好ましくないことだと思っている。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
40	P.25 (1)-②-イ は、地域自治を推進するという ことでもいいのか。	そのとおり。
41	では、行政センター管区ごとに予算をつけていく ということでもいいのか。	地域運営協議会等の設置を検討している。その 中で運営方法や予算をつけられるのか等も含 めて、総合的に検討していきたい。
42	他市の事例ではうまくいっているところが多いと 聞く。ぜひ検討していただきたい。 また、その際行政センターがない本庁地区への 配慮はお願いしたい。	ご指摘のとおり、本庁地区では各部が直接担当 し、一体的な組織がない。他の行政センター管 内と齟齬がないように準備していきたい。
43	P.1(1)-②-オ の海に親しむ拠点づくりとして、 海辺つり公園以外にも釣りができる拠点を整備 してほしい。	現在、海辺つり公園以外にはアイクルの先、大 津漁港の横の計3か所で釣りが可能である。 その他の場所のルールも作り、釣りもある程度 できるように検討していきたい。
44	有料でもいいという声もある。使用料を清掃費 用に回すことなども含めて検討していただきた い。	検討をすすめたい。
45	P.3④ にあるポートセールスでは、どのような対 象を考えているか。	物流、人流の2つが考えられる。 現在も行っているが、物流は港運業者(荷 主、船会社)へのセールス、人流については客 船・クルーズの誘致を進めていきたい。
46	横須賀港の年間利用状況などの管理が細かく できていなかったと建設常任委員会で聞いてい たが、空き状況などを把握した上でそのセール スにいかないと相手先も検討しにくいのではな いか。	ご意見の点についてきちんと見極めた上で、 ポートセールスをしていきたい。
47	現在宮崎と定期船の運航を検証している最中だ と聞いている。10年先までのこの計画に項目と して挙がっていないようだが、その点はどうなっ ているか。	ポートセールスの中には当然宮崎もターゲッ トに入っているが、宮崎には昨年打診した後にま だ感触が伝わってこないため、さらに一押し、ま たは他の地域も含めて進めていきたい。
48	なかなか地名を計画に入れていくのは難しいと 思うが、ぜひ前向きに推進していただきたい。	
49	P.25 (1)-②-ア の自治基本条例について、各 部長一人ひとりがどのように捉えているか聞きた い。	市の行政運営などの基本的な指針となるような 基本条例を作れるよう、経済部も必要な部分で 一緒に取り組んでいきたい。

No.	委 員	理 事 者
	発言要旨	発言要旨
50		環境部も市民と一体となって仕事を行っている。市民が主体となっていけるような基本条例づくりに一緒に取り組んでいきたい。
51		主役は市民という前提の中で、行政のあるべき姿を示すというのが条例策定の考え方だと思う。財政部としても、納税など財政的な観点がどのように盛り込めるか考える必要がある。
52		直接市民と関わる部分が少ないが、職員の円滑な事務執行に関わる部分として盛り込めるものがあれば表現していきたい。また、議会基本条例の策定の様子についても伺っているので、今度は行政側としての基本的な指針として策定を進めていきたい。
53		自治基本条例は、住民自治と団体自治を進めるための根幹的なものである。市民部で進めている地域運営協議会はまさに住民自治を体現するものであり、そのバックボーンともなるため協働してやっていきたい。
54		この基本計画で示すハード的な都市づくりの将来像や方向性、そして都市計画マスタープランなどにも沿って進めていきたい。
55		自治基本条例とは密接な関係があり、市民のニーズなどに対応できるよう研究しながらサービス提供に努めていきたい。
56		地方分権の一環として、地域の自主性がそこでどうやって表せるかだと思う。そういった概念を持ちながら、勉強していきたい。
57		住民自治を体現するバックボーンになるものであり、それにより自分の部署がどう変わっていくか、どれだけの覚悟がいるのか、に対する考えが各部長の答弁の中にはあったと思う。まずは、全職員の意識改革が重要であり、部課長や一般職員への研修も行っていく予定である。
58	「自治体運営における基本ルール」とあるが行政的な切り口であるように感じる。より「市民と共に」という表現が必要なのではないか。	「自治体運営における基本ルール」は役所向きでなく、一般市民でも市長でも行政職員でも同じように権利と義務を要しており、それぞれの権限の中で何をやるかであり、それはまさに自治体運営の基本ルールといえる。ただし、表現については今後も検討していきたい。

No.	委員	理事者
	発言要旨	発言要旨
59	<p>自治基本条例は自治体の憲法といわれるものである。そのような最上位であるべき条例の姿が、この基本計画の中で見えにくい。</p> <p>従来の柱立ての中で、この「住民自治の推進」の施策案として挙げられているが、このような扱いでいいのか疑問にも思う。</p> <p>「自治体運営・・・」は団体自治という観点であり、住民自治も加えるためには「コミュニティの再生」など他の柱に散らばっている要素も集めて、この項目にもう少し厚みを加えた表記ができないか。</p>	<p>ご意見は承った。また総合計画審議会での意見などを聞いた上で判断していきたい。</p>
60	<p>自治基本条例が計画などで初めて書かれる部分でもあるので、表記の仕方についてぜひ考えていただきたい。</p>	
61	<p>シティセールス、スポーツの交流拠点、ポートセールスなど、横須賀に来る相手方重視の施策が多い。</p> <p>周辺に鎌倉や横浜もある中で、他の自治体にはない魅力がないと難しいと思うが、その点についてどう考えているか。</p>	<p>良好な自然、海岸線など「売り物」はあると考えている。ロコミの活用など、人が主体となって発信することにより、横須賀の持続的な発展につなげたい。</p> <p>また、市民の中にも魅力が十分伝わっていないかもしれない。それに対しては、P.2④における横須賀への愛着や誇りを育むなど、市民向けのものも行っていきたい。</p>
62	<p>野球場も横須賀に一杯あるがなかなか大会を引っ張ってこれない中で、サッカー場が一つだけでも全国大会を誘致するのは難しい。</p> <p>それよりも海を使ったヨットレースなどの方が有効かもしれない。</p>	
63	<p>P.1(1)-①-ウ の事業例でトライアスロンが出てきた経緯について教えてほしい。</p>	<p>長井地区とトライアスロンを主催している会社から話があり、地域活性につなげようと機運が高まっているので、市としてそのお手伝いをしている状況。これに関する予算を市では持っていないため、市職員が各種調整などを手伝っている。</p>
64	<p>P.2③-ア の姉妹都市・友好都市交流の推進について、文言では「次世代の交流を支える人材を育てるため」だけになっているように見える。現世代の交流などは触れていないがこれでもいいのか。</p>	<p>ご意見のとおり、次世代のためだけに読めるので、表現を考えていきたい。</p>
65	<p>P.2③-イ で「外国人」という表現が出てくるが、この外国人には米軍人も含まれるのか。</p>	<p>交流を支える人材や団体として考えており、特段そのような区別や意識をして表記していない。</p> <p>横須賀を訪れる人(仕事でも勉強でも)として、全て広く市民と考えている。</p>
66	<p>明確に答えて欲しいが、では米軍人も除外しないと考えていいのか。</p>	<p>そのとおりである。</p>



No.	委 員	理 事 者
	発言要旨	発言要旨
67	それであれば、P.6(6)の可能な限りの米軍基地の返還を目指すとは矛盾して来るのではないか。	米軍基地の返還については、横須賀市の姿勢として変わらないもので基本構想にもある。このこと、横須賀を訪れる外国人の中に米軍人を入れるかどうかは矛盾するものではないと考えている。
68	基地の中の構成員である米軍人と交流し、仲良くしていくことはその基本構想と矛盾するものではないか。文化面でもその基本構想の姿勢を貫いて欲しい。	
69	基地の方と住民登録をしている外国人では、区別すべきなのは。	この基本計画で書かれている「外国人」は先に述べたとおり。委員のご意見については、個々の法律に基づいた予算や事業の中できちんと考えるべきであると考えている。
70	P.2④ の定住とは違うが、首都圏からも近いため週末だけ過ごして農業や自然を楽しむことも提案できると思う。文言として加えてみてはどうか。また収穫期や田植えの時期だけ来る「援農」についてもどうか。	週末だけ暮らすというのは、まさにP.1のアーバンリゾートの考え方だ。西地区に観光ゾーンを位置づけた後、他の地域について考えていけばいいと思う。観光ゾーンに位置づけるためには、都市計画上の制約もあるため、これから検討していきたい。また、「援農」については個別の事業として実施計画などで考えるものであると思う。
71	P.2(2)の施設案内板について、最近市外から来た方が迷われているのをよく見かける。先ほど答弁もあったが、どう考えているか。	どの部署がどのような案内板を持っているか、まずは調査から始めたい。
72		景観の関係で、ある程度都市部(市街地景観課)にデータがあると思われる。
73	P.24(3)-② の関連で、事業を行っていく際に学者や専門家などの意見を取り入れる場を積極的に持ってほしい。そういう姿勢を盛りこめないか。	この計画を作るにあたって、学識経験者の方にも入っていただいている。他にも各部局で専門委員から意見をいただいたり、指定管理者の選考などの際には必ず専門家の方に入っている。引き続きそれらを推進していきたい。
74	審議会等である程度できあがったのを見るのではなく、その前の段階で専門家に入って欲しい。今後、自治基本条例の策定もあるのでその点についても期待している。	自治基本条例の策定をこれから行っていくが、市民への説明など場面によっては行政だけでなく、学識経験者など専門家の方から説明するというのも、一つの方法だと思う。まだ中身についてはこれからなので、その考え方を取り入れるかも含めて専門家に意見を聞きながら考えていきたい。